

化学・生物総合管理の再教育講座(講義内容)

後期

科目No.	151	科目名	化学物質総合評価学概論2		サブネーム	化学物質リスク評価の基礎2		
連携機関名	(財)化学物質評価研究機構	レベル	基礎		講義枠	土曜日	講義時間	14:00~15:30、15:50~17:20
科目概要	化学物質及び化学物質を含む製品について、その生産、輸送、利用及び廃棄に至るまでの過程におけるリスク評価手法の全般を理解することを目的とし、ヒトの健康に対する化学物質の有害性を確認するための手法の概要を解説する。 (化学物質総合評価学概論1 からの続き)							

サブタイトル	No.	講義名	講義概要	講義日	教室	講師名	所属
人の健康への影響評価	1	公衆衛生学概論	職域における健康障害とその予防について解説する。 水及び空気の衛生等の環境衛生を解説する。	10月6日	共通講義棟 1号館 301	石井聡子	(財)化学物質評価研究機構
	2	疫学概論	疫学の三要素(時間、場所、ヒト)について解説する。 具体的な例(カネミ油症等)により、疫学調査の概要を解説する。 リスク評価における疫学の位置づけを解説する。	10月6日		高月峰夫	
	3	皮膚・眼刺激性試験	各種試験方法の概要及び結果の評価方法について解説する。試験結果が労働者のリスク管理や作業環境を整備するための基礎データとして、また化粧品などのリスクを評価するための基礎データに利用されていることを解説する。	10月13日		石井聡子	
	4	免疫毒性試験	各種試験方法の概要及び結果の評価方法について解説する。試験結果が労働者のリスク管理や作業環境を整備するための基礎データとして利用されていることを説明するとともに、シックハウス問題等の社会的問題と免疫毒性との関連について解説する。	10月13日		大塚雅則	
	5	一般毒性試験(1)	試験方法の概要及び結果の評価方法について解説する。	10月20日			
	6	一般毒性試験(2)	試験結果が化学物質のリスク評価における許容摂取量の推定等に利用されることを解説する。	10月20日			
	7	神経発生毒性試験	試験方法の概要及び結果の評価方法について解説する。	10月27日	人間文化 607	江馬 真	国立医薬品食品衛生 研究所
	8	生殖発生毒性試験	試験方法の概要及び結果の評価方法について解説する。	10月27日			
	9	遺伝毒性試験(1)	試験方法の概要及び結果の評価方法について解説する。	11月17日	共通講義棟 3号館105	大塚雅則	(財)化学物質評価研究機構
	10	遺伝毒性試験(2)	遺伝毒性試験の抱える課題と発がん性リスク評価との関係について解説する。	11月17日			
	11	発がん性試験(1)	発がんメカニズムと発がん性評価における国際機関の活動概要を解説する。	11月24日	共通講義棟 1号館301		
	12	発がん性試験(2)	試験方法の概要及び結果の評価方法について解説するとともに、新規発がん性予測手法について解説する。	11月24日			
	13	体内動態試験	化学物質の毒性を理解する上で、体内動態を明らかにすることが重要であることを理解する。 吸収(absorption)、分布(distribution)、代謝(metabolism)、排泄(excretion)の一連の流れを解説する。	12月1日	共通講義棟 3号館 1講105	高月峰夫	
	14	実験動物からヒトへの外挿	実験動物を用いて得られた試験結果から人に対する毒性を外挿する方法を解説する。外挿の際に用いられる不確定係数について解説するとともに外挿の限界について解説する。	12月1日			
	15	毒性試験法ガイドラインとGLP基準	試験の均一性を目指して試験法ガイドラインが設定されていることを解説する。 試験結果の信頼性を保証するための優良試験書基準(GLP)について解説する。	12月8日	共通講義棟 3号館 1講105		

2007/9/14 教室の決定。 2007/10/19 11月17日の教室変更